

魅力発信！えひめ農業NOW

令和4年9月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業NOWは、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業・観光＞農業＞農業の魅力発信

※2 この動向は、9月中に各普及地区から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564


<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>



目次




目次	1
9月のトピックス5選	3
追い払いによる被害軽減効果の実証に取り組む	3
「ひめの凜」リモートセンシングによる玄米タンパク質含有率の推計実証	3
新規就農者がなす栽培について学ぶ	4
マイナー野菜の需要拡大へ加工品づくりを検討	4
新規就農者等を対象とした「儲かる農業交流セミナー」を開催	5
えひめ農業NOW	6
■東予地方局 地域農業育成室	6
農福連携さといも収穫作業の共通認識を図る	6
新たな販路開拓に向け研修会を開催	6
神戸小学校生徒がさつまいもの収穫体験	7
鳥獣管理専門員による指導者研修	7
就農初期農業者研修会開催	8
■東予地方局 地域農業育成室 四国中央農業指導班	8
さといも疫病が体系モデル防除で大幅に減少	8
四国中央市のさといも収量・品質は平年並みの見込み	9
「うま茶」を五感で味わう提案でファン層の拡大を	9
■東予地方局 産地戦略推進室	10
絹かわなすの優良系統種子を採取	10
いちご定植講習会と花芽検鏡を実施	10
花木の育苗・栽培技術の高度化支援に取り組む	11
■今治支局 地域農業育成室	11
女性認定農業者の先進地事例調査	11
「瀬戸の晴れ姫」一次審査（園地巡回）の実施	12
いちご花芽分化確認研修	12
■今治支局 産地戦略推進室	13
高校生による醸造用ぶどう収穫体験を開催	13
甘長とうがらし新技術検討会	13
オリーブ生産者の活動支援	14
■中予地方局 地域農業育成室	14
新規就農者等への経営研修会を実施	14
就農予定者と青年農業者の交流会を開催	15
農業女子の資質向上のための研修を支援	15
就労継続支援事業所スタッフを対象に農業技術研修会を実施	16



モデル集落でイノシシ対策活動状況を報告	16
■中予地方局 地域農業育成室 伊予農業指導班	17
青年農業者、新規就農者が愛媛果試第 48 号の品種特性等を学ぶ	17
■中予地方局 地域農業育成室 久万高原農業指導班	17
ピーマン自動かん水装置 2 戸が新規導入	17
■中予地方局 産地戦略推進室	18
テレビで「パクチー」の魅力を PR.	18
「パクチー」の大阪フェアに向けて	18
■南予地方局 地域農業育成室	19
新規参入希望者の円滑な就農定着に向け、新たな育成システムを稼働	19
復旧園地における穴掘り機を活用した土壌改良実証	19
■南予地方局 地域農業育成室 鬼北農業指導班	20
鬼北地区きゅうり産地を担う新規就農者が誕生	20
「市田柿」を(株)源吉兆庵宇和島工場に初出荷	20
■南予地方局 地域農業育成室 愛南農業指導班	21
南宇和高校生にドローン撮影による園地管理手法を指導	21
青年農業者が甘夏の水腐れ症対策プロジェクトを開始	21
■南予地方局 産地戦略推進室	22
ゆず部会役員会で排水改善策を紹介	22
■八幡浜支局 地域農業育成室	22
現地講習で新規就農者の技術力向上をサポート	22
八西地区のかんきつ産地の維持発展を考える	23
スマート農業技術の普及・実装に向けたフォーラムを開催	23
農山漁村における女性の役職登用実現に向けて	24
■八幡浜支局 地域農業育成室 大洲農業指導班	24
「シャインマスカット」冬季出荷の拡大に向けて	24
秋作ラディッキオの定植開始	25
■八幡浜支局 地域農業育成室 西予農業指導班	25
秋の重点指導週間を設定し、新規就農者を個別訪問指導	25
青ゆずの生産拡大に向けて出荷打ち合わせ	26
■八幡浜支局 産地戦略推進室	26
温州みかん・「甘平」の台湾輸出 取引増を目指し検討	26
■農産園芸課 高度普及推進グループ	27
ミニトマトの高糖度を目指した根域制限実証を開始	27
高品質種子生産に向けた指導、審査を実施	27



9月のトピックス5選

標 題	追い払いによる被害軽減効果の実証に取り組む		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年9月21日	場所	西条市丹原町中川地区	
指導対象	サル対策モデル集落リーダー(4人)	連携機関	(株)野生鳥獣対策連携センター 阿部豪氏	
普及指導内容	<p>○当地区寺尾集落をサルによる被害対策実践モデル集落として大型捕獲おりによる捕獲実証等を支援している。</p> <p>○今年度、新たに挑戦的新技术等先行モデル実証事業を活用しクラウドセンサーカメラを用いた追い払いによる被害軽減効果を実証。追い払いを効果的に進めるために、集落住民とサルの渡りを確認し、センサーカメラの設置場所を検討することとした。</p>			
結果と今後	<p>○サルの渡りは、集落内を横断する高速道路沿いに13カ所で確認できた。このうち、痕跡の濃かった5カ所にカメラを設置(10月中旬予定)することとした。</p> <p>○カメラ設置後の管理運営や追い払いは、住民が主体的に取り組むことができるよう後日打ち合わせを行う。例年、11月上旬からかんきつや柿の被害が見られるため、住民からは追い払いへの期待の声が聞かれた。</p>			
<p>【挑戦的新技术等先行モデル実証事業】 鳥獣管理専門員が既存の対策からもう一段階上の効果的・効率的な対策となりうる新技术等に取り組む事業</p>				
	サルの渡りを確認		サルの渡りとセンサーカメラ設置場所	



標 題	「ひめの凜」リモートセンシングによる玄米タンパク質含有率の推計実証		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和4年9月21日	場所	今治市	
指導対象	—	連携機関	愛媛県農林水産研究所	
普及指導内容	<p>○収穫前の「ひめの凜」の玄米タンパク質含有率をドローンによるセンシングで推計できないか確認するため、農林水産研究所の協力を得て、市内7ほ場で、センシングデータの収集(空撮)を行った。</p> <p>○ドローンによるセンシングは農水研が担当し、当室はセンシングデータと突合させる玄米タンパク質含有率と相関がある葉色を葉緑素計(SPAD)により測定した。</p>			
結果と今後	<p>○10月上中旬に収穫する玄米のタンパク質含有率を食味分析器で実測し、センシングデータ、葉緑素計(SPAD)による葉色との相関を調べ、リモートセンシングにより「ひめの凜」収穫前に玄米タンパク質含有率が推計できるか検討を行う。</p> <p>○この技術が確立すれば、共同乾燥施設で、美味しさ基準のタンパク質含有率区分に分けて乾燥調整する粳の量を増加させることができ、作付面積拡大につながる。</p>			
<p>【美味しさ基準】 玄米タンパク質含有率や等級等で品質を区分する基準。最高品質のプレミアムクオリティーの玄米タンパク含有率は6.3%以下。</p>				
	撮影に飛立つドローン		葉色を測定	



標 題	新規就農者がなす栽培について学ぶ		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年9月26日	場所	JA えひめ中央新規就農研修センター (伊予市市場)	
指導対象	新規就農者 (5人)	連携機関	JA えひめ中央	
普及指導内容	<p>○なすの天敵利用技術や、追肥及びかん水管理について現地講習会を開催した。</p> <p>○昨年度の天敵利用実証では、農薬散布回数が4割削減され省力化につながった。</p> <p>○天敵を定着させるには、代替餌の散布が有効。</p> <p>○経験や勘に頼ってきた追肥やかん水作業を数値で「見える化」することで、篤農家の技術が実践できる。</p>			
結果と今後	<p>○参加者は高い関心を示し、「露地で利用できる天敵は何か」「天敵温存ハウスの規模はどのくらい必要か」など、多くの質問が出た。</p> <p>○2月に栽培講習会を開催し、実証結果の報告を行い天敵利用技術の波及を図る。</p>			
				
	現地ほ場での説明	代替餌の散布	土壌水分の「見える化」	

標 題	マイナー野菜の需要拡大へ加工品づくりを検討		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和4年9月21日	場所	黒井地集会所	
指導対象	ツルムラサキ生産者	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○宇和島市三間地域を中心に栽培されているツルムラサキの新たな食べ方の提案や加工品開発を通じて、認知度向上につなげ消費拡大を図るため、当室は、試作品を元に意見を交わす試食会を開催した。</p> <p>○若手生産者やJA担当者ら12人が参集し、ツルムラサキを練りこんだうどんやシフォンケーキなどについて、素材の形状（ペースト、粉末）や含有量の違いによる風味の感じ方など様々な意見交換を行った。</p>			
結果と今後	<p>○ツルムラサキは、特徴である独特のヌメリとえぐみから好き嫌いが分かれる野菜であり、試作において、色を重視する声や、香りと後味にやや難ありといった多様な意見があった。引き続き、産業技術研究所と連携し、他の試作品の開発を進め、地元企業への商品化提案などの新たな可能性についても検討していく。</p>			
				
		<p>左：試作品（うどんとシフォンケーキ）</p> <p>右：生産者を交えた試食会</p>		



標 題	新規就農者等を対象とした「儲かる農業交流セミナー」を開催		機関名	南予地方局地域農業育成室 八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和4年9月27日	場所	大洲市総合福祉センター	
指導対象	新規就農者、青年農業者、農業大学 校生、農業高校生等（100人）	連携 機関		
普及指導 内容	<p>○地方局予算事業「南予儲かる農業人材育成事業」の一環で、南予地域の新規就農者らが一堂に会し技術交換を行う交流セミナーを開催。</p> <p>○セミナーでは、儲かる農業の実現を目指し、新規就農者に対する支援策の情報提供をはじめ、新規就農者2人の事例発表や昨今の肥料高騰を踏まえた土づくりと施肥改善をテーマとした講演を行った。</p>			
結果と今後	<p>○事例発表では、農業用倉庫の確保や農産物加工の取組など、新規就農者の悩みや将来の夢に対し、青年農業者リーダーが自身の経験を基にアドバイスを実施した。</p> <p>○講演では、土づくりに対する知識を習得しようと熱心に聴講し、堆肥の特性や緑肥作物の有用性等、自身の経営において確認したいことなど具体的な質問が多く出た。</p> <p>○本事業では新規就農者に対して、支援チームによる濃密的な技術・経営指導をはじめ、年収1千万円を目指した経営指標の作成・提示を通して経営改善を促すこととしており、オール南予で新規就農者の定着と地域農業の維持発展に取り組む。</p>			
				<p>左：新規就農者の事例発表</p> <p>右：愛媛大学農学部 上野教授による土づくりに関する講演</p>

えひめ農業NOW


標 題	農福連携さといも収穫作業の共通認識を図る	機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年9月21日	場所	JA周桑営農管理研修センター
指導対象	さといも生産者、集落営農法人(13人) 西条市農福連携共同受注事業者(11人)	連携機関	JA周桑
普及指導内容	<p>○令和元年から取り組み始めた農福連携によるさといも収穫作業。4年目を迎えた今年、作業依頼面積は昨年の3.5倍の1,040aの希望があり、関係者が増えたことから認識を共有するため初めての研修会を支援した。</p> <p>○会では、取組の目的と作業の内容及び流れ、作業料金と作業時間及び休みの日の対応などを説明した後、収穫してもよいさといもをキャリアに入れて展示し、生産者と福祉事業者の意識統一を図った。</p>		
結果と今後	<p>○生産者と福祉事業者は出荷可能なさといもを何回も手で持ち、参加者同士で確認していた。</p> <p>○福祉事業者は、それぞれのほ場の連絡担当者を決めて作業に臨むが、9～3月にかけての長期間であり、定期的な状況把握に努める。また局予算事業で農作業共同受注システムの構築に取り組んでおり、システムに活かせるように支援する。</p>		
 		<p>左：さといも選別を説明する職員 右：規格を確認する福祉事業者</p>	



標 題	新たな販路開拓に向け研修会を開催	機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年9月12日	場所	西条市大町 サカエマチ HOLIC
指導対象	一次産業女子ネットワーク組織 たべとうみん(6人)	連携機関	
普及指導内容	<p>○たべとうみんの「媛の国一次産業女子活躍推進事業」への新たな取組みである加工品開発と既存商品(旬菜ボックス)の販路拡大を支援している。</p> <p>○今回の研修会では、マーケティングに関する講話とワークショップを実施。</p>		
結果と今後	<p>○ワークショップでは、3C分析による顧客の絞り込みと販売戦略を考えた。</p> <p>○メンバーは、「旬菜ボックス」のターゲットを明確にすることがいかに重要か、またターゲットに合わせた商品づくりのための内容見直しが必要であることを学んだ。</p> <p>○今後は、旬菜ボックスへ入れる農産物の新規開拓や他地域での売れ筋野菜、農産物の陳列やPR方法等の研修を目的に、京阪神方面へ視察研修を実施することとしている。</p>		
 		<p>左：マーケティングを勉強 右：ワークショップでターゲットの絞り込み</p>	



標 題	神戸小学校生徒がさつまいもの収穫体験		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年9月29日	場所	西条市神戸地区	
指導対象	西条市青年農業者協議会員(9人) 神戸小学校3年生(37人)	連携機関	西条市、JA えひめ未来	
普及指導内容	<p>○子供達に農業へ関心を持ってもらいたいと、西条市青年農業者連絡協議会から要望を受け、小学生を対象にさつまいもの収穫体験イベントを企画、開催を支援した。</p> <p>○小学生は会員や先生と協力しながら作業を行い、収穫の喜びに笑顔があふれ、ほ場内は和やかな雰囲気包まれた。</p>			
結果と今後	<p>○小学生からは「大きなおいもが採れて嬉しい」「農家さんがこんなに大変な思いをして育ててくれるのは嬉しい」と感謝の言葉が、会員からは、「収穫の喜びを知って欲しくて行った」「みんなが楽しそうでやりがいを感じる」との声があった。</p> <p>○収穫したさつまいもは、神戸小学校の給食の食材や、「ときめき水都市」で販売しているタルト「お芋に恋をして」の原料としても使用される予定。</p> <p>○11月17日には、初の試みとして、収穫したさつまいもを使った「焼き芋イベント」を計画しており、会員が「さつまいもの栽培講座」のほか、西条市の農産物の紹介や、収穫体験時の動画放映なども行う。</p>			
				
	会員と小学生の対面式	会員が収穫の方法を指導	笑顔で集合写真	



標 題	鳥獣管理専門員による指導者研修		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年9月27日	場所	JA 周桑営農管理研修センター	
指導対象	東予地域鳥獣害対策担当者、東予地域えひめ地域鳥獣管理専門員(26人)	連携機関		
普及指導内容	<p>○東予地域えひめ地域鳥獣管理専門員連絡会では、自らの資質向上と地域リーダー及び指導者育成に取り組んでおり、この一環として指導者対象の研修会を開催した。</p> <p>○当日は、鳥獣害対策の基礎知識の講話及び複合柵(ワイヤーメッシュ柵+電気柵)設置実習を実施。</p>			
結果と今後	<p>○講話では、東予地域における鳥獣被害の現状や生態、効果的な防護柵について学んだ。</p> <p>○参加者の半数以上が防護柵の設置未経験者であったことから、基本的な構造や設置でのポイント、維持管理の重要性などを指導した。</p> <p>○今後も、連絡会では関係機関団体と連携し指導者育成に取り組んでいく。</p>			
				
			<p>左：鳥獣管理専門員による講話 右：複合柵設置実習</p>	




標 題	就農初期農業者研修会開催		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年9月28日	場所	今治市立花地区、今治市朝倉地区	
指導対象	西条地区青年農業者連絡協議会員、 就農初期の農業者等（33人）	連携 機関	西条市、新居浜市、JA周桑、JAえ ひめ未来	
普及指導 内容	<p>○西条地区青年農業者連絡協議会から、協議会未加入の就農初期の農業者や他地区の農業者らと交流を図りながら、土づくりや栽培技術習得について学びたいとの要望を受け、研修会を企画・開催した。</p> <p>○研修先の今治市辻堂の「長尾農園」の長尾正人氏からは、「長尾農園での有機農業の実践」を、今治市朝倉の藤田浩一郎・朝子夫妻からは「新規参入からこれまでの経営」と題した講話を受けたあと、それぞれのほ場見学を行った。</p> <p>○研修終了後には、次回の研修開催時の参考にするため、「LoGo フォーム」を利用し、研修会の感想や要望などのアンケートを実施した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、「農薬や肥料が高騰する中、生物多様性を重視した生態系のバランスのとれた栽培が行われており、大変参考になった」「I ターンならではの苦労話が聞け、夫婦で成功事例に辿りついた経緯が聞けて希望が持てた」との感想があった。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p style="text-align: center;">「長尾農園」長尾正人氏 藤田浩一郎・朝子夫妻のほ場</p>				


標 題	さといも疫病が体系モデル防除で大幅に減少	機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和4年9月6日	場所	四国中央管内さといもほ場
指導対象	管内さといも生産者	連携 機関	JA うま、管内青果業者（3社）
普及指導 内容	<p>○平成27年に県内で初めて確認された「さといも疫病」は甚大な被害を及ぼすことから、当班はJA、青果業者と緊密に連携し、体系的な防除対策に取り組んでいる。</p> <p>○本年の重点対策として、「さといも疫病防除対策情報【さといも疫病防除体系モデル】」を作成の上、モデル地区である藤原集落の生産者にラミネートシートを配付し、適期防除の指導徹底を行った。</p>		
結果と今後	<p>○9月6日現在、疫病の発生面積は30haで市内の栽培面積165haに対する発生率は18.2%に留まり、昨年の53.5%から大幅に減少した。</p> <p>○当班は、発生率が減少した要因を次のとおり分析しており、今後とも更なる低減に向けた指導を継続実施する。</p> <p>①有効な登録農薬の効果発揮 ②予防散布の徹底 ③生産者の防除意識の高揚 ④梅雨明け後の高温多照</p>		
<div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 35%;"> <p>【さといも疫病防除体系モデル】 地域の初発前に適用拡大した薬剤を 予防散布し、初発（本年は7月13日） 確認後は、予防・治療のための薬剤散 布をローテーションで行う</p> </div> <div style="width: 30%; text-align: center;">  <p>配付したラミネートシート (農家が庭先等で容易に確認)</p> </div> </div>			


標 題	四国中央市のさといも収量・品質は平年並みの見込み		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和4年9月11日（8月31日調査）	場所	愛媛さといも広域選果場	
指導対象	管内さといも生産者	連携機関	JA うま	
普及指導内容	<p>○JA うま営農経済部と合同で、市内豊岡及び土居地区のさといもの試験掘りを実施し、さといもの生育状況等を調査。</p> <p>○今回の調査結果を受け、愛媛さといも広域選果場（JA うま）の今年の集荷は9月11日から始まり、9月12日に市場に向けて初出荷された。</p> <p>○当班は、高温少雨の気象状況を踏まえ、畝間かん水や疫病対策の徹底を一日営農相談等を通じて生産者に広く指導し、高品質・安定生産技術の確立を図った。</p>			
結果と今後	<p>○例年実施している各地区代表的生産者の23ほ場で、ほ場毎に3株を抽出して調査した結果、平均収量は4,463kg/10aで平年比（H29～R3年）110%、前年比111%、秀品率は34%で平年比92%となり、収量は増収、品質はほぼ平年並みであった。</p> <p>○当班は、今後も高品質なさといもの出荷に向け、個別指導等を徹底する。</p>			
				<p>左：本年最多収生産者の親いも・子いも・孫いも</p> <p>右：選果場</p>


標 題	「うま茶」を五感で味わう提案でファン層の拡大を		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和4年9月10日	場所	四国中央市新宮町	
指導対象	うま茶振興協議会（1人）	連携機関		
普及指導内容	<p>○協議会事業「産地と日常をつなぐ『お茶カフェ』事業」を通じて、うま茶の産地とブランド茶「結の霧ひめ」のPRを支援した。</p> <p>○「お茶カフェ」事業で産地に興味を示した消費者2人を対象に、協議会副会長（大西茶園代表）が茶園と製茶工場を直接案内し、お茶の生育や製茶方法等を説明しながら、茶摘みや紅茶づくりといった実際の作業体験を交えて、産地の魅力やうま茶の味わい方を披露・提案し、うま茶ファン層の拡大を図った。</p>			
結果と今後	<p>○山里一面に広がる風光明媚な茶園と丁寧な製茶工程を目の当たりにした参加者は、お茶の価値観が変わったとの見解で一致し、口コミ等を通じて産地や商品のPRに寄与することが期待される。</p> <p>○当班は、うま茶のPRと販路拡大には、お茶のある生活スタイルの浸透が不可欠と考えており、そのコアとなる女性を中心とした消費者へのアプローチ手法をはじめ、今後もファン層の拡大に向けた様々な取組みを企画・提案していく。</p>			
<p>【産地と日常をつなぐ「お茶カフェ」事業】 うま茶の認知度向上や販路拡大を目指して、四国中央市近郊の消費者をターゲットに日常にお茶に親しむ取組みを店舗等で実践・提案する事業</p>				
		味や香りが変わる製茶工程に関心		茶摘みと紅茶づくり


標 題	絹かわなすの優良系統種子を採取		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和4年9月6日	場所	西条市氷見地区	
指導対象	絹かわなす種子生産者（1人）	連携機関	JA えひめ未来	
普及指導内容	<p>○JA えひめ未来絹かわなす部会では、種子を確保するためのほ場を設置している。</p> <p>○これは、品種改良がされていない伝統野菜であることから、生産維持のため自家採取するもの。</p> <p>○当日は、形状や大きさなどをもとに、選抜した株から収穫した果実の種子採取方法を指導。今年は高温傾向だったため、生育期に害虫防除を徹底した。</p>			
結果と今後	<p>○例年の発芽率80%を想定し、次年度の栽培見込み220a分の種子約6万粒を確保した。</p> <p>○採取した種子は、15日程度風乾させた後、地元育苗業者へ提供される。</p>			
				<p>左：種子採取作業の様様</p> <p>右：採取された種子</p>




標 題	いちご定植講習会と花芽検鏡を実施		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和4年8月31日、9月5日、9日、30日	場所	旧丹原町、旧西条市、旧伊予三島市	
指導対象	管内いちご生産者（36人）	連携機関	JA 周桑、JA 東予園芸、JA えひめ未来、JA うま	
普及指導内容	<p>○いちごの定植に向けて、定植手法や定植後のかん水・肥培・温度管理方法、さらに病害虫対策について指導した。</p> <p>○特に、本年は例年よりも気温が高い傾向であるため、ハウス内の温度を下げるための暑熱対策（寒冷紗による被覆や循環扇の使用、多かん水）について重点的に説明した。</p> <p>○あわせて、8月下旬から9月にかけては、いちご苗の花芽の形成状況を31件、126検体について顕微鏡で確認し、定植のタイミングや花芽分化状況に応じた栽培管理方法を指導した。</p>			
結果と今後	<p>○本年は気温が高く花芽分化は遅延傾向であったため定植を3～7日程度遅らせることとした。</p> <p>○定植時期の遅れによる収量等への影響はない見込み。</p>			
				
定植後の管理方法を説明		いちごの株を解体して花芽の形成状況を確認		


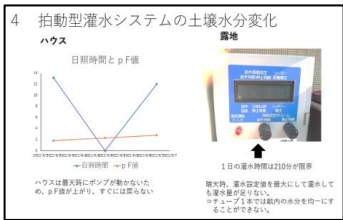

標 題	花木の育苗・栽培技術の高度化支援に取り組む		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和4年9月29日	場所	西条市丹原町	
指導対象	管内育苗農家、JA、県立丹原高校 (24人)	連携 機関	今治支局産地戦略推進室	
普及指導 内容	<p>○ピットスポラム、ビブルナム・ティナス、メラレウカの挿し木技術の向上を図るため、花木育苗講習会を開催し、実演・実習を行った。</p> <p>○また、挿し木による発根率を向上させるため、県立丹原高校、JA、県が共同で実証試験に取り組む「花木苗生産プロジェクト」を立ち上げた。</p> <p>○さらに、営農指導者向けの高度化研修会を開催し、新たな栽培技術として低樹高での省力栽培や、主幹を多数確保することで収益を向上させる樹形作りについて指導した。</p>			
結果と今後	<p>○初めて挿し木を行う農家や高校生は、挿し穂の調整方法等のポイントを習得した。</p> <p>○プロジェクトでは、挿し穂の充実度の違いによる発根状況と密閉挿しの有効性を関係機関で定期的に調査し、結果はマニュアルに反映させる。</p> <p>○高度化研修会での新たな栽培技術については、JA 毎の栽培講習会を通じて農家への普及を図る。</p>			
				
<p>挿し木技術の実演 プロジェクトの挿し穂を調整 高度化研修で樹形作りを指導</p>				




標 題	女性認定農業者の先進地事例調査		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和4年9月15日	場所	今治市大三島町	
指導対象	今治地区認定農家女性協議会(14人)	連携 機関		
普及指導 内容	<p>○当室は、今治地区認定農家女性協議会が、しまなみ地域の気候や特徴を生かした農村活性化の取組を学ぶための事例調査を実施した。</p> <p>○グリーン・ツーリズムの調査では、今治市伯方町において、特産の塩を使った生キャラメルづくりの体験を行った。</p> <p>○今治市大三島町では、(株)大三島みんなのワイナリーの醸造施設やほ場を見学した。</p>			
結果と今後	<p>○生キャラメルづくり体験では地元の塩を使ったアイデアと美味しさに全員が感心し、(株)大三島みんなのワイナリーでは、「朝倉地域(陸地部)ではワイン用ぶどうは栽培できないのか」「ワインはどのように販売しているのか」など活発に質問が出た。</p> <p>○次回は、今治産小麦を活用した加工品開発を実施予定。</p>			
				
<p>生キャラメル体験 醸造施設見学</p>				
<p>【今治地区認定農家女性協議会】 平成15年に、認定農業者の女性等が栽培技術や経営知識等を学ぶ目的で発足。</p>				


標 題	「瀬戸の晴れ姫」一次審査（園地巡回）の実施		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和4年9月1日～2日、7日～9日	場所	瀬戸の晴れ姫出荷申請園地	
指導対象	瀬戸の晴れ姫出荷申請生産者(123人)	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○「はれひめ」を栽培する生産者から、JA おちいまばりブランド「瀬戸の晴れ姫」として出荷する園地認定の申請のあった187園地を対象に、JA と一次審査（園地巡回）を実施した。</p> <p>○一次審査では生産者立会いの下、審査員であるJA と当室職員がマルチシートの被覆や摘果等園地管理の状況のほか、果実肥大、糖度、病害虫発生程度等の品質面から総合的に評価し、可否の判断を行った。</p>			
結果と今後	<p>○審査した園地はすべて適正に管理されており、今年度は全体的に糖度も高く、全園地を合格とした。</p> <p>○今後、11月上旬に一次審査合格園を対象に二次審査を行い、50果の平均糖度が11.5度以上で「瀬戸の晴れ姫」の出荷園地に認定。</p> <p>○認定園地から出荷された「はれひめ」のうち、光センサー分析により糖度12度以上の果実が「瀬戸の晴れ姫」として販売される。</p>			
<p>【瀬戸の晴れ姫】 JA おちいまばりの「はれひめ」のブランド品。園地認定を行い、マルチシート被覆等栽培管理を徹底し、外観が良く、糖度12度以上、酸度1.0%未満のブランド基準を満たした果実。</p>				<p>普及指導員及びJA職員による園地</p>



標 題	いちご花芽分化確認研修		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和4年9月12、29日	場所	今治支局	
指導対象	若手営農指導員（2人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○当室の野菜担当若手職員とJAの若手営農指導員が合同でいちごの花芽分化を確認する研修を実施した。</p> <p>○同研修は、JAの若手営農指導員の中には、採用後間もないことや人事異動等で、いちごの花芽分化のステージを確認する方法を知らない者がいることから参加を呼びかけた。</p> <p>○研修では、ベテラン普及指導員を講師に、実体顕微鏡を用いて苗の生長点付近を拡大して見ながら、花芽まで針を使い葉を取り除く手法や花芽分化のステージの判断方法等を学んだ。</p>			
結果と今後	<p>○指導員からは「針で花芽を突く細かな作業は難しかったが、練習を重ねて習得したい」と声が聞かれた。</p> <p>○指導員の技術定着を図るため、来年も継続していちご花芽分化確認の研修を行う。</p>			
		<p>左：若手営農指導員による研修 右：ベテラン普及指導員による検鏡指導</p>		



標 題	高校生による醸造用ぶどう収穫体験を開催		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和4年9月23日	場所	今治市上浦町、大三島町	
指導対象	今治北高校大三島分校生（10人）	連携機関	大三島みんなのワイナリー 今治北高等学校大三島分校	
普及指導内容	<p>○局予算事業「しまなみ地域の魅力ある農業産地化事業」の一環として大三島みんなのワイナリーの協力の下、「今治北高等学校大三島分校生による醸造用ぶどう収穫体験・醸造技術学習会」を開催した。</p> <p>○ぶどう園地で収穫体験を行った後、醸造所でワインづくりの工程を学習した。</p>			
結果と今後	<p>○収穫体験で生産者の日々の苦労を実感し、ワインづくりではジュースの試飲などを通して醸造工程等について学んだ。生徒からは、「地元で新たな農業が根付いているのを初めて知った」「将来農業をやる時の選択肢となる」との声があった。</p> <p>○今後は同生徒等を対象に「しまなみ農業産地見学ツアー」や「せとうちみたとマルシェ」でのワイン販売体験を実施し、地元の新たな農業について理解を深めてもらう。</p>			
				
	ぶどうの収穫体験	果汁の搾り作業	ワイン酵母の添加作業	



標 題	甘長とうがらし新技術検討会		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和4年9月14日	場所	今治支局、JAおちいまばり、愛媛県農林水産研究所	
指導対象	JA おちいまばり	連携機関	JA おちいまばり、愛媛県農林水産研究所	
普及指導内容	<p>○甘長とうがらしの更なる生産力強化を図るため、JA、県担当で甘長とうがらしの新技術の実証結果等について担当者で協議した。</p> <p>○同会はコロナ感染予防のためリモートで開催し、県からは、局予算事業「しまなみ地域の魅力ある農業産地化事業」で導入した日射拍動型かん水システムや「普及組織先導型革新的技術導入事業」で導入した隔離ベット栽培の実証結果を現地撮影動画等で報告。農林水産研究所からは生理障害対策試験の概要等が報告された。</p>			
結果と今後	<p>○日射拍動型自動かん水システムでは、曇天が続いた場合のかん水量について、隔離ベット栽培では、切り下げ前後の適正な養液濃度等について協議された。</p> <p>○今後も新技術導入に係る課題解決のため、担当者間で情報共有していくとともに、栽培先進地である京都への視察を行うことで更なる栽培技術の向上を図っていく。</p>			
				
	リモートでの技術協議	拍動型かん水システムの実証結果	隔離ベット養液栽培の実証状況	

標 題	オリーブ生産者の活動支援		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和4年9月5日、13日	場所	(株)瀬戸内園芸センター事務所 今治市立大島中学校	
指導対象	オリーブ生産者(3人)、ポパイズクラブ、(株)瀬戸内園芸センター、NPO法人アクションアイランド	連携機関	今治市立大島中学校	
普及指導内容	<p>○5日に主要な生産者グループであるポパイズクラブと、1月に今治市内にオリーブ専門店を開設する(株)瀬戸内園芸センターの協議の場を設け、オリーブオイル等の取引及び今後の産地化推進に係る協議を行った。</p> <p>○13日にはNPO法人アクションアイランド代表者と共に大島中学校を訪問し、将来の担い手確保に向けた「オリーブ苗木づくり体験学習」の実施について校長等と協議し日程や実施内容等を検討した。</p>			
結果と今後	<p>○瀬戸内園芸センターとポパイズクラブが連携してオリーブの各種商品の開発や販売、PR活動に取り組むとともに、今後は新店舗でのメニュー開発等に取り組む。</p> <p>○大島中学校では、1年生を対象に10月に挿し木、2月に鉢上げ作業等を行い、育てた苗は耕作放棄地に植栽されるとともに、生徒にもプレゼントされる予定。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>オリーブの産地化に係る協議</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>建設中のオリーブ専門店</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>苗木づくり体験学習の協議</p> </div> </div>				



標 題	新規就農者等への経営研修会を実施		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年9月29日	場所	JA松山市興居島支所	
指導対象	新規就農者4人、認定農業者等10人	連携機関	JA松山市	
普及指導内容	<p>○松山市泊地区の農業簿記開始3年以内の認定農業者や新規就農者が結成したグループを対象に「経営研修会」を実施。</p> <p>○新規就農者4人に対しては、専用簿記ソフトを利用した固定資産の登録や経費の仕訳、部門別収支の設定方法等について指導した。</p> <p>○別に10人の認定農業者等に対しては、インボイス制度や農業機械の安全使用についても併せて指導した。</p>			
結果と今後	<p>○簿記技術の習得により、参加者の経営管理能力が向上した。</p> <p>○農業者自らが経営を把握して改善に生かせるよう、今後もJA等関係機関と連携して支援する。</p>			
<div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>経費の仕訳や固定資産の登録等を勉強</p> </div> </div>				

標 題	就農予定者と青年農業者の交流会を開催		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年9月21日	場所	愛媛県生活文化センター	
指導対象	就農予定者25人、青年農業者8人	連携機関	松山地区青年農業者連絡協議会 伊予地区青年農業者連絡協議会 JAえひめ中央新規就農研修センター 松山市、日本政策金融公庫松山支店	
普及指導内容	<p>○就農予定者の具体的な就農とその定着を促進するとともに、青年農業者組織の活性化を図るため、栽培品目別の意見交換や農業指導士の経営事例発表を行った。</p> <p>○青年農業者連絡協議会等への勧誘及び仲間作りも推進した。</p>			
結果と今後	<p>○農業指導士は、自身の体験を踏まえ、就農予定者の課題解決策など不安解消のための質疑に丁寧に回答し、就農予定者は大いに参考にできた。</p> <p>○各就農予定者は、青年農業者の協議会活動に興味を示し、今後の会員数増加や組織の活性化に期待が持てる。</p> <p>○今後も青年農業者協議会活動を有効に活用し、組織の活性化と併せて会員や新規就農者個々の資質向上を支援していく。</p>			
	 <p>農業指導士による経営事例発表</p>		 <p>栽培品目毎の班別討議</p>	



標 題	農業女子の資質向上のための研修を支援		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年9月26日	場所	今治市大西町脇、松山市	
指導対象	農業女子組織「しとらす」8人 (松山市 興居島)	連携機関	今治支局地域農業育成室	
普及指導内容	<p>○かんきつ園地の基盤整備を予定している「しとらす」を対象に、今治市大西町での先進地視察研修を支援した。</p> <p>○現地視察に加え、機械メーカーの協力を得て「充電式運搬機」「電動草刈機」「電動チェーンソー」等、女性が扱い易い電動農業機械について具体的に操作方法を学んだ。</p>			
結果と今後	<p>○樹園地の基盤整備については、実際の整備園を視察したことで実施効果が具体的に理解できた模様。</p> <p>○電動農業機械については、軽量で扱い易いと好評であったため、今後は個別に実際の活用方法等について提案していく。</p>			
	 <p>基盤整備の現地状況を確認</p>		 <p>女性が扱える農業機械を勉強</p>	



標 題	就労継続支援事業所スタッフを対象に農業技術研修会を実施		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年9月27日	場所	(株)OCファーム暖々の里	
指導対象	福祉事業所スタッフ (15人)	連携機関	JA えひめ中央	
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ (株)OCファーム代表取締役長野隆介氏が、会社で出荷している作物の紹介と農福連携に取り組みそうな農作業について講演し、福祉側に農業側の意見や考え方を伝えた。 ○併せて農作業安全講習を実施し、草刈機の安全な使用方法やメンテナンス方法について具体的に指導した。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○長野氏の講演により、農業側と福祉側の相互理解が促進された。 ○福祉事業所スタッフの農作業安全に対する意識が高まった。 ○農家に対し農福連携のメリットについて周知を図るため、JA を通じた広報を実施する。 			
				
	長野氏による講演		草刈機のメンテナンス指導	



標 題	モデル集落でイノシシ対策活動状況を報告		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年9月22日	場所	松山市興居島泊地区	
指導対象	生産者 (44人)	連携機関	JA 松山市	
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の集まり (部会総会ほか) を利用し、対策リーダー育成活動の報告や地域ぐるみでの活動推進、並びに今後の活動予定を説明した。 ○現在までに侵入防止リーダーの育成として、モデル園のワイヤーメッシュ柵の点検・修繕に係る技術指導を継続して実施している。 ○修繕部分からの侵入はなくなり、効果が確認できていることを報告した。 ○モデル園の対策について現地見学を勧めるとともに、対策には労力がかかるため、共同での取組が有効であることを提案した。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○侵入防止対策は、修繕した場所以外からの侵入もあるため、侵入ゼロになるまで継続する。 ○軽量箱わなは、猟期前に捕獲リーダーに使用方法を指導後設置する。 			



標 題	青年農業者、新規就農者が愛媛果試第 48 号の品種特性等を学ぶ		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和 4 年 9 月 16 日	場所	愛媛県果樹研究センター	
指導対象	伊予地区青年農業者、新規就農者 (計 9 人)	連携 機関	愛媛県果樹研究センター	
普及指導 内容	<ul style="list-style-type: none"> ○伊予地区青年農業者及び新規就農者を対象に、果樹研究センターにおいて愛媛果試第 48 号の品種特性や整枝法、早期成園化に向けた栽培管理技術研修を実施。 ○キウイフルーツの花粉採取に適した整枝法等についても技術習得を行った。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○参加者の愛媛果試第 48 号に対する栽培知識が高まり、安定生産の一助となった。 ○技術研修や意見交換を通じて、青年農業者と新規就農者の連携が深まった。 ○今後も地域農業を支える担い手の育成を図る。 			
				<p>左：愛媛果試 48 号品種特性研修 右：愛媛果試 48 号整枝・栽培管理</p>



標 題	ピーマン自動かん水装置 2 戸が新規導入		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和 4 年 9 月 30 日	場所	久万高原町内各地	
指導対象	ピーマン生産者 (118 人)	連携 機関	JA 松山市	
普及指導 内容	<ul style="list-style-type: none"> ○9 月末時点で 16 戸が日射制御型自動かん水装置を導入しており、導入農家からは「かん水作業の省力化が図れた」との好評の声が多い。 ○導入農家を日射制御型自動かん水装置の波及拠点として位置づけ、他の栽培者への省力効果の説明や導入推進のモデルとしている。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○栽培者 2 戸が、日射制御型自動かん水装置を新規導入した。 ○新規導入者への技術支援を引き続き行うとともに、栽培終了後、導入による省力化や収量性のデータをとりまとめる。 			
		<p>導入した自動かん水装置</p>		



標 題	テレビで「パクチー」の魅力を PR		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和4年9月14日	場所	砥部町満穂 生産者ほ場	
指導対象	パクチー生産者	連携機関	JA えひめ中央、砥部町	
普及指導内容	○「パクチー」の認知度向上等を目的に、当室が紹介した砥部町満穂の生産者ほ場における、県内テレビ局のパクチー紹介番組の収録を支援した。			
結果と今後	○生産農家のほ場で、生産者が実際に収穫作業をしながら、収穫の仕方や栽培概要、食べ方等について説明した。 ○収穫物は、生産者の奥さんが手順を説明しながら、お好み焼き、かき揚げに調理し、出演者で試食した。 ○マスメディア等を活用した PR は、生産者の生産意欲の向上にもつながることから、引き続き、認知度向上や需要の拡大に取り組む。 (10/1 (土) および 10/8 (土) のテレビ愛媛「ゆ～ばら」(17:00~17:30) 内で放送された)			
				<p>左：ほ場で栽培概要を説明</p> <p>右：パクチーかき揚げの調理</p>



標 題	「パクチー」の大阪フェアに向けて		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和4年9月29日	場所	大阪市内飲食店2店舗	
指導対象	パクチー生産者	連携機関	愛媛県大阪事務所、JA えひめ中央	
普及指導内容	○中予地域のパクチーの主な出荷先である関西地域での認知度向上と需要拡大を目的に、愛媛県大阪事務所の協力を得て、大阪市内のえひめ食の大使館2店舗を訪問し、中予産パクチーのPRを行った。 ○中予産パクチーの現状と取組みを紹介したのち、パクチーのサンプルを手渡し、料理試作と11月に実施予定のフェアへの協力を依頼した。			
結果と今後	○2店舗からは、「愛媛にパクチーがあるのは初めて知ったし、葉はもちろん根まで立派なパクチーなので素晴らしい食材だと思う」「早速、試作してみたいし、フェアにも協力したい」と好感触であった。 ○試作後、料理が決定すれば、11月下旬に各店舗でフェアを実施し、パクチー料理がメニューに登場する予定。 ○今後、大阪フェアの実施に向けて準備を行う。			
				<p>左：中予産パクチーについて説明</p> <p>右：パクチーサンプル</p>



標 題	新規参入希望者の円滑な就農定着に向け、新たな育成システムを稼働		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年8月25日、9月22日	場所	宇和島市吉田支所及び現地	
指導対象	研修生1人及び受入農家4戸	連携機関	宇和島市役所、JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○新規参入希望者に対して就農相談から体験・研修・就農定着までを支援する育成システムの構築を昨年から関係機関に提案し、準備を進めてきた中で、8月下旬から宇和島市農業支援センター（事務局：宇和島市農林課）を核とした新システムが稼働し、相談・体験・研修を開始した。</p> <p>○今月は、管内でかんきつ栽培を志す1ターン就農希望者に対し、管内全域75戸の受入支援農家（以下、親方農家）のうち、旧吉田町4戸の農家で体験・研修を開始するため、本人の面談と受入農家への説明会を開催した。</p>			
結果と今後	<p>○9月中旬から11月上旬は旧吉田町、以降は旧宇和島市内の親方農家2戸で年内まで体験・研修を行うこととしており、双方が合意した場合は雇用契約を締結し、本格的な農業研修から就農定着へステップを進める。</p> <p>○今後も、県内外からの多様な担い手候補者のスムーズな就農定着に向け、本件をモデルとした受入体制を整備するとともに、定着時の農地、住居や資本装備のリスク軽減についても、親方農家や支援センター等と連携して対応を進める。</p>			
		<p>左：研修生との面談 （左：支援センター、右：研修生）</p>		
		<p>右：受入農家への説明会 （左：受入農家、右：支援センター）</p>		



標 題	復旧園地における穴掘り機を活用した土壌改良実証		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年9月8日	場所	宇和島市吉田町河内地区	
指導対象	かんきつ園地復旧生産者（10人）	連携機関	JA えひめ南、宇和島市南予地方局農村整備課	
普及指導内容	<p>○平成30年7月豪雨で被災した復旧園地では、重機による工事で地面が固く締まっているため、以前から「スコップやツルハシを使った手作業では植穴掘りが困難」との声が生産者から上がっていた。</p> <p>○このため、関係機関に働きかけ、南予果樹同志会役員を対象に土木用オーガと電動ハツリ機2種の計3種を準備して、作業性、機能性、経済性などを検証した。</p>			
結果と今後	<p>○この結果、本体が10kgの電動ハツリ機が一人で運搬、作業もでき、取り扱いが容易であることを生産者、関係者で確認した。</p> <p>○今後は、生産者や関係者の意見を踏まえ、連携機関で構成される営農支援班で機材購入や生産者へのレンタルなどを検討していく。</p>			
		<p>左：土木用オーガ</p>		
		<p>右：電動ハツリ機</p>		


標 題	鬼北地区きゅうり産地を担う新規就農者が誕生		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和4年9月30日	場所	鬼北町小西野々、岩谷	
指導対象	鬼北町農業公社研修生（1人） 鬼北町農業公社	連携 機関	鬼北町農業公社、鬼北町農業委員会	
普及指導 内容	<p>○鬼北町農業公社の研修生1人（Iターン）が2年間の研修を終了し、10月から鬼北町内で就農した。</p> <p>○当班では、鬼北町と連携し、同公社の研修ハウスにおいて就農時の経営の基幹品目となるきゅうりの栽培指導を行うとともに、経営計画の具体的な実現に向けた空きハウス・農地のマッチング支援、スムーズな農業経営に向けた作付計画の検討と土壌分析による土壌改良や排水対策等を支援した。</p>			
結果と今後	<p>○農地20aで利用権設定が完了し、きゅうりは来年春の露地栽培から開始するほか、アーチを活用した葉菜類やさといも等の栽培も予定している。</p> <p>○新規就農者は、環境に配慮した栽培管理を目指しているため、引き続き技術支援を行うとともに、集落農業の担い手として、空きハウスの活用と周辺農地の集積も視野に関係機関と協力し、早期の経営安定化に向けて伴走支援を継続する。</p>			
			<p>左：経営開始するほ場 右：施設きゅうり研修</p>	



標 題	「市田柿」を(株)源吉兆庵宇和島工場に初出荷		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和4年9月30日	場所	鬼北農業指導班	
指導対象	—	連携 機関	(株)源吉兆庵宇和島工場 JA えひめ南鬼北支所	
普及指導 内容	<p>○当班は「市田柿」の安定生産実証に取り組んでおり、実証園で生産された柿を、JA えひめ南鬼北支所を通して、10月に管内で初めて(株)源吉兆庵宇和島工場に出荷することとなった。</p> <p>○この「市田柿」は、平成28年に新植して成木になった4本から収穫したもので、今年度は新たに27本の苗木を新植しており、ファクトリーブランド協議会と連携して、専用バックと培土による大苗25本も育成中である。</p>			
結果と今後	<p>○今年度は、同工場に100kgを出荷予定であり、引き続き関係機関と連携し、新規栽培の取組みを推進していく。</p>			
			<p>左：「市田柿」 右：大苗育苗</p>	



標 題	南宇和高校生にドローン撮影による園地管理手法を指導		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和4年9月9日、16日	場所	県立南宇和高校平山農場（愛南町御荘平山）	
指導対象	県立南宇和高校生1、2年生 （6人）	連携機関		
普及指導内容	<p>○同校のプロジェクト活動で農林業を研究している「農林業」チームは今年度、愛南町における「河内晩柑」の生産課題の解決に取り組んでおり、当班は外部講師として指導を行っている。</p> <p>○同チームでは「低樹高化」と「密植の解消」をテーマに活動しており、密植の程度を測定するため、同校農場の園地上空からドローンによる写真撮影を実施した。</p>			
結果と今後	○今後、同校農場の植栽密度等をパソコンで分析し、10月に行われる同校の中間発表会で途中経過を報告する予定。			
				<p>左：園地での簡易測量 右：ドローンによる撮影</p>



標 題	青年農業者が甘夏の水腐れ症対策プロジェクトを開始		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和4年9月30日	場所	南宇和郡愛南町	
指導対象	かんきつ生産者（4人）	連携機関	愛南地区青年農業者協議会	
普及指導内容	<p>○地域の基幹品目である甘夏は、冬季に高温や長雨が続くと水腐れ症などの果皮障害が発生しやすい傾向にある。</p> <p>○対策にはジベレリン散布が有効であるが、甘夏には登録がないためカルシウム剤の葉面散布が代替技術とされている。</p> <p>○当班は、この問題解決をプロジェクト活動に取り上げている愛南地区青年農業者協議会にカルシウム資材の選定や散布計画策定などの支援を行い、当協議会が今回第1回目の散布を行った。</p>			
結果と今後	<p>○2週間おきに計3回の葉面散布を続け、カルシウム剤の効果を確認する。</p> <p>○10月には鹿児島県に甘夏の高品質栽培について先進事例視察を行う。</p>			
				<p>左：会員がカルシウム剤を散布 右：散布後の甘夏</p>



標 題	ゆず部会役員会で排水改善策を紹介		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和4年9月8日	場所	JA えひめ南鬼北支所	
指導対象	ゆず生産者	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○JA えひめ南鬼北ゆず部会・三間・津島合同役員会において、本年の生産状況報告や今後の対策等について協議後、当室が取り組んでいる排水不良園の対策試験について説明を行った。</p> <p>○これは、水田転換園への新植が増える中、排水不良が原因と見られる生育遅れ等があることから、水田特有の岩盤を小型穴あけ機で破碎し、根域の水分状態の改善を図るもので、実施後の土壌水分値は10%程度改善されている状況を報告した。</p>			
結果と今後	<p>○参加した役員からは、個人で破碎機を使用する場合の購入経費やリースの有無についての質問や、改善が見込めるなら取組を前向きに検討したいなどの意見があった。</p> <p>○排水改善対策の生育への影響については、新梢伸長状況調査を10月に行う予定。</p> <p>○また、高齢化が進む地域においては栽培管理の省力化を特に進めていく必要があるため、今冬、間伐や低樹高推進の講習会を予定している。</p>			
				<p>左：役員会で中間報告 右：対策園での調査</p>

標 題	現地講習で新規就農者の技術力向上をサポート		機関名	八幡浜支局地域農業育成室																																																
年月日	令和4年9月7日	場所	八幡浜市真穴地区他																																																	
指導対象	新規就農者（5人）	連携機関	八幡浜市、伊方町																																																	
普及指導内容	<p>○新規就農者の技術力向上を目的に、シトラス講座の第2回目を現地で開催した。</p> <p>○今回は、温州みかん、中晩柑の仕上げ摘果を、栽培初心者でも分かりやすいように時期別の摘果指標を用いて実施した。</p> <p>○また、コロナ禍のため、シトラス講座は動画での配信を予定していたが、今回は農家からの要望により実地で開催した。</p>																																																			
結果と今後	<p>○参加者からは、実際の樹の状態を見ながら受講できたことから、摘果程度の感覚や除去する果実の大きさが分かりやすいと好評であり、地方局予算事業「南予儲かる農業人材育成事業」の重点対象者も参加し、実習しながら日頃の疑問点等を解決した。</p> <p>○今年度のシトラス講座は、コロナ感染拡大状況や講座内容に応じ、動画配信と現地講習を併用しながら実施する。</p>																																																			
		<p>温州みかん小玉果・大玉果を除去する目安(S~2L果を生産)。</p> <p>表2 早生温州</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>8/20</th> <th>9/1</th> <th>9/11</th> <th>9/21</th> <th>10/1</th> <th>10/11</th> <th>10/21</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>S下眼 (55mm)</td> <td>37</td> <td>41</td> <td>44</td> <td>48</td> <td>50</td> <td>52</td> <td>54</td> </tr> <tr> <td>2L上眼 (80mm)</td> <td>61</td> <td>64</td> <td>66</td> <td>70</td> <td>73</td> <td>76</td> <td>78</td> </tr> </tbody> </table> <p>表3 南柑20号</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>8/20</th> <th>9/1</th> <th>9/11</th> <th>9/21</th> <th>10/1</th> <th>10/11</th> <th>10/21</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>S下眼 (55mm)</td> <td>34</td> <td>36</td> <td>41</td> <td>45</td> <td>48</td> <td>51</td> <td>52</td> </tr> <tr> <td>2L上眼 (80mm)</td> <td>48</td> <td>50</td> <td>56</td> <td>59</td> <td>64</td> <td>67</td> <td>71</td> </tr> </tbody> </table>			8/20	9/1	9/11	9/21	10/1	10/11	10/21	S下眼 (55mm)	37	41	44	48	50	52	54	2L上眼 (80mm)	61	64	66	70	73	76	78		8/20	9/1	9/11	9/21	10/1	10/11	10/21	S下眼 (55mm)	34	36	41	45	48	51	52	2L上眼 (80mm)	48	50	56	59	64	67	71	<p>左：「南柑20号」の摘果指導 右：時期別の摘果指標</p>
	8/20	9/1	9/11	9/21	10/1	10/11	10/21																																													
S下眼 (55mm)	37	41	44	48	50	52	54																																													
2L上眼 (80mm)	61	64	66	70	73	76	78																																													
	8/20	9/1	9/11	9/21	10/1	10/11	10/21																																													
S下眼 (55mm)	34	36	41	45	48	51	52																																													
2L上眼 (80mm)	48	50	56	59	64	67	71																																													


標 題	八西地区のかんきつ産地の維持発展を考える		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和4年9月21日	場所	八幡浜支局	
指導対象	八西地区認定農業者・青年農業者・ 家族経営協定ネットワーク・八西生 活研究協議会員（50人）	連携 機関	八幡浜市、伊方町、JAにしうわ	
普及指導 内容	<p>○高齢化等による担い手や労働力が不足する中、かんきつ産地を維持発展させるため、管内での新たな取組等を紹介する「八西農業者フォーラム2022」を開催。併せて、一次産業女子によるかんきつ加工品の展示・販売や電動一輪車の体験も実施した。</p> <p>○フォーラムでは、地方局予算事業「西宇和地域柑橘集落営農組織支援事業」や農福連携について説明するとともに、かんきつ集落営農や移住就農、農福連携等に取り組む農家等の発表により、八西地区の農業者4組織の交流と情報共有を図った。</p>			
結果と今後	<p>○県内初のかんきつ農事組合法人設立後の課題や、移住就農者の思いや苦勞、農福連携の事例紹介を受け、各会員における「将来のかんきつ産地をどうするか」を考える契機となった。</p> <p>○今後も関係機関と連携し、各組織活動を支援するとともに、担い手の確保・育成や労働力確保に取り組む。</p>			
				<p>左：新規就農者の事例発表 右：電動一輪車の体験</p>



標 題	スマート農業技術の普及・実装に向けたフォーラムを開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和4年9月26日	場所	JAにしうわ本店	
指導対象	かんきつ生産者、農業高校生他（54人）	連携 機関	西宇和スマート農業推進協議会	
普及指導 内容	<p>○スマート農業の普及啓発と現地実装を進めるため、フォーラムを開催した。</p> <p>○フォーラムでは、農研機構から「かんきつ果実生産出荷のスマート化と今後の展望」と題した講演や関係機関からの情報提供を行い、AI 選果機等スマート農業に関する実証成果や実証モデル園での取組について広くPRした。</p> <p>○また、会場内では、簡易アシストスーツ及び電動一輪車の展示と併せて、生産者が着用・運搬体験を行い、その効果を体感した。</p>			
結果と今後	<p>○管内生産者にスマート農業の実証成果や取組等を広く紹介することで理解を深めることができた。</p> <p>○引き続き、スマート農業技術に関するセミナーやCATVを通じた情報発信等により、導入に向けた普及啓発を行う。</p>			
				<p>左：農研機構による講演 右：アシストスーツ着用体験</p>



標 題	農山漁村における女性の役職登用実現に向けて		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 〃 大洲・西予農業指導班
年月日	令和4年9月30日	場所	八幡浜支局	
指導対象	管内農業関係組織代表 (27人)	連携機関	管内市町、JA、農業委員会 (公財) えひめ女性財団	
普及指導内容	<p>○農業経営における方針決定への女性参画などの男女共同参画の推進を目的に、農山漁村男女共同参画八幡浜地区連絡会議を開催した。</p> <p>○連絡会議では、管内の女性参画の状況等を報告し、情報共有を図ったほか、えひめ女性財団の門田欣也氏を講師に迎え、女性の役職登用推進の背景や問題点、その解決策についてワークショップを通して研修した。</p>			
結果と今後	<p>○ワークショップでは参加者が7班に分かれ、熱心な討議が行われ、男女共同参画についてじっくり考えるよい機会となり、解決に向けた斬新な提案が出るなど、意識を高めることができた。</p> <p>○今後は、根強い固定観念を捨て、働き方改革を踏まえながら女性の役職登用を啓発するとともに、各組織での登用しやすい環境整備に向け支援していくこととしている。</p>			
				<p>左：支局管内の推進状況を報告 右：ワークショップで熱心な討論</p>



標 題	「シャインマスカット」冬季出荷の拡大に向けて		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和4年9月14日、21日、22日	場所	JA 愛媛たいき五十崎支所、ぶどう園地 (内子町)	
指導対象	ぶどう生産者	連携機関	JA 愛媛たいき	
普及指導内容	<p>○お歳暮需要が見込める「シャインマスカット」の冬季出荷量の拡大に向けて、JA 部会員に呼びかけ、特に外観の優れた貯蔵用に適した果実の収穫を指導した。</p> <p>○収穫した「シャインマスカット」は12月まで冷蔵で貯蔵するため、十分検品した後、水で満たしたフレッシュホルダーを装着する処理を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○今年処理した「シャインマスカット」は約1,800房で、昨年よりも200房程度増加した。</p> <p>○冬季販売の優位性を高めるため、販路の検討や販売促進、商品PRに取り組む。</p>			
				<p>左：フレッシュホルダーを装着 右：貯蔵処理が完了した房</p>



標 題	秋作ラディッキオの定植開始		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和4年9月22日	場所	大洲市五郎	
指導対象	ラディッキオ生産者（4人）	連携機関	JA 愛媛たいき、大洲市	
普及指導内容	<p>○国内での需要が高まっている西洋野菜ラディッキオの秋作の定植が始まるにあたり、来年春先までの収穫を目指し9月10日から順次定植日をずらしていくことや、今後の栽培面積拡大に向けて移植機の実用化を提案した。</p> <p>○併せて、秋作の取組は今回が初めてのため、生育初期の水管理と防除の徹底を指導した。</p>			
結果と今後	<p>○本作は10月中旬から収穫し、京阪神市場中心に出荷を予定している。</p> <p>○今後、マルチの上から植え付けられる移植機を先駆的に導入している生産者と連携し、その実用性を検討し、普及を図る。</p> <p>○また、県ブランド戦略課が発行している食材カタログ「えひめの旬と通（11・12月号）」に掲載し、知名度向上を図る。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>ラディッキオの苗</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>手作業による定植</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>植付け後のほ場</p> </div> </div>				

標 題	秋の重点指導週間を設定し、新規就農者を個別訪問指導		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和4年9月7日～13日	場所	西予市	
指導対象	新規就農者（10人）	連携機関	西予市、JA ひがしうわ	
普及指導内容	<p>○9月7日～13日を新規就農者への秋の重点指導週間とし、地方局予算事業「南予儲かる農業人材育成事業」の重点指導対象を個別訪問した。</p> <p>○栽培作物の技術相談のほか、台風対策資料の配布・説明や、9月27日に開催する「儲かる農業セミナー」を周知した。</p>			
結果と今後	<p>○台風の事前、事後対策や、セミナーの土づくりによる肥料高騰対策に関心を示すなど、真剣に農業に取り組む姿勢がうかがえた。</p> <p>○引き続き、新規就農者の定着と早期経営安定を目指し、個別・集団による栽培技術や経営管理指導を行う。</p>			
 <p>台風の事前・事後対策を指導</p>				

標 題	青ゆずの生産拡大に向けて出荷打ち合わせ		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和4年9月～	場所	JA ひがしうわ城川農産センター	
指導対象	JA ひがしうわ ゆず部会（9人）	連携機関	JA ひがしうわ	
普及指導内容	<p>○9月からの出荷に向け、8月に実施した東京での商談結果に基づく青ゆずの評価や活用方法、取引を行う上での問題点等を説明。</p> <p>○なお、今年産は昨年度サンプルを提供した県外の飲食店のうち、取引が成立した東京の1店舗を含め約6 t（前年比：94%）を出荷した。</p>			
結果と今後	<p>○生産者からは「売り込みは産地 PR のためにも地道に続けてほしい」「利用方法（皮を利用）を考えてターゲットを絞るとよい」等の意見が出された。</p> <p>○今後も JA と連携し、販路拡大のため情報収集や青ゆずの新たな活用方法の提案等に取り組んでいく。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   <div style="text-align: right;"> <p>左：青ゆず出荷について説明</p> <p>右：収穫された青ゆず</p> </div> </div>				

標 題	温州みかん・「甘平」の台湾輸出 取引増を目指し検討		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室
年月日	令和4年9月28日	場所	JA にしうわ真穴共同選果場、八幡浜支局	
指導対象	温州みかん生産者1人 「甘平」生産者3人	連携機関	JA にしうわ、ブランド戦略課	
普及指導内容	<p>○屋根掛け温州みかん、「甘平」の台湾輸出に向けたスケジュールを協議した。</p> <p>○生産者の栽培状況を確認し、カイガラムシ防除薬剤の使用不可を申し合わせるとともに、「甘平」の硬果症対策等の栽培改善指導を行った。</p>			
結果と今後	<p>○春節(R5.1.22)に向け、年明け早々から出荷を開始することとし、昨年(屋根掛け温州みかん約1.4t、「甘平」2.1t)以上の販売を目指すことで、生産者の了解を得た。</p> <p>○検討会では、生産・物流コストが上昇しているため、輸出のメリットを持たせる販売価格の交渉を業者と行うこととした。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   <div style="text-align: right;"> <p>左：屋根かけ温州みかん（前年産）</p> <p>右：「甘平」の輸出について検討</p> </div> </div>				

標 題	ミニトマトの高糖度を目指した根域制限実証を開始		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和4年9月12日、16日	場所	伊予市双海町上灘	
指導対象	生産者1戸	連携機関		
普及指導内容	<p>○「平成31年度普及組織先導型革新的技術導入事業」で高機能パイプハウス及び隔離培地栽培によるトマト栽培を導入した生産者に対し、さらに高糖度のミニトマトを生産するため、根域制限による栽培実証を提案した。</p> <p>○これは、防根シートを隔離培地の地上約10cmに設置し、根域のみを制限することで植物体へのストレスを向上させ、果実の高糖度化を目指したもの。</p> <p>○また、多段栽培より密植し、1～3花房程度を残して摘心することで花房間の競合が少なく、比較的容易に果実の高糖度化が期待できる低段密植栽培の実証も提案した。</p>			
結果と今後	<p>○一部の栽培ベッドで根域制限栽培実証を開始したため、低段密植栽培について適宜栽培技術指導を実施する。</p> <p>○また、今後、生育の経過観察や品質及び収量について評価することとしており、先導的な高収益技術の確立を図っていく。</p>			
				<p>左：防根シートの設置 右：苗の定植</p>

標 題	高品質種子生産に向けた指導、審査を実施		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和4年9月1日～	場所	伊予市、松前町の採種ほ場	
指導対象	水稲種子生産者(67人)	連携機関	JA松山市、JAえひめ中央 伊予農業指導班	
普及指導内容	<p>○水稲採種ほ場における高品質生産及び審査体制の効率化のため、全ほ場(5品種236ほ場)のマップ化と各品種の糊熟期審査前に管理状況の調査及び指導を行った。</p> <p>○各ほ場の事前調査の結果を基に、指摘事項を書面で全生産者に通知し、改善を求めた。また審査では、ほ場マップを用いたことで案内役を必要としない最少人数での審査が可能となった。</p>			
結果と今後	<p>○引き続き、病害虫や雑草発生状況等の管理状況を、生産者や関係機関と共有し収穫まで適正管理を指導するとともに、高品質生産に向けた精度の高い審査体制を整備する。</p>			
				<p>左：マップ化した採種圃場の一部 (ペーマップ：ESRI) 右：事前審査の実施状況</p>

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

機関名	所在地および連絡先
東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々 1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543